

⑤ 吉岡幸雄 著

『「源氏物語」の色辞典』

(紫紅社)

新年を迎えるころ、源氏は妻たちへ晴れ着を配ります。紫の上のために選んだ色合いは、「葡萄染と今様色」、つまりワインカラーに流行の赤を組み合わせた華やかなトレンド志向、他方明石の上には「白に濃き」、つまり白の下に濃い紫が少し見える、何とも上品でシックなコーディネート。この配色が紫の上に、まだ会ったことのない明石の上の人柄をそれとなく推測させるあたり、女性の心の機微が絶妙に描かれていますね。

では実際にそれらがどんな色合いなのか、ぜひ本書でご確認ください。人柄にまで結びつくような意味づけをされた色を見ることで、その色が放つ意味合いを登場人物と共有できますよ。(N.T.)

757.3 ||Yos

⑦ 江上隆夫 著

『無印良品の「あれ」は決して安くはないのになぜ飛ぶように売れるのか? : 100億円の価値を生み出す凄いいコンセプトの作り方』

(SBクリエイティブ)

誰もが一度は耳にしたことのあるヒット製品、長く愛され続けるブランドの成功の要因にはどんな秘密が隠されているのでしょうか。筆者は共通するものはコンセプトだと述べています。

本書ではコンセプトを「目的を達成するための原理・原則を短く明確に表現した言葉」として扱い、有名ブランドや企業を例にとり、コンセプトとは何か、コンセプトの作り方、コンセプトの使い方、順を追って丁寧に解説しています。

モノに限らず、今後自身の未来を見据えて行動する際のビジョンを定めるのに役立つ一冊となるのではないのでしょうか。(M.S.)

675 ||Ega



⑥ 大阪大学ショセキカプロジェクト 編

『ドーナツを穴だけ残して食べる方法：越境する学問一穴からのぞく大学講義』

(大阪大学出版会)

「ドーナツを穴だけ残して食べるには？」

学生を中心としたプロジェクトから生まれた本書は、一見不可能と思えるこの問いに、大阪大学が誇る各分野の頭脳12人が、学問の立場から真剣に取り組んで応えています。

経営学、美学、人類学など文理問わず、様々な分野の学問がドーナツを通じて紹介されているので、苦手意識のある分野にも興味がわくきっかけとなるかもしれません。

また、各章の合間には、世界のドーナツ事情についてのコラム記事があり、世界のお菓子文化についても知ることができます。(N.N.)

002 ||Dona

⑧ 岡田温司 著

『黙示録：イメージの源泉』

(岩波書店)

普通に『黙示録』と言えば『新約聖書』の『ヨハネの黙示録』を指すのですが、キリスト教の知識が無ければ何を意味しているのか理解しにくい言葉です。本書は、『黙示録』という書物の成り立ちについて、また、そこに展開されている世界終末と再生の思想とイメージ、そしてそれが西洋の政治、文化、社会、文学、芸術といった様々なジャンルでどれほど多くの影響を与えてきたか、解りやすく説明しています。サリン事件や9.11の時のハルマゲドンという言葉、『オーメン』などの映画で扱われた悪魔を表す数字の本当の意味、アポカリプス、メント・モリなどの用語がよく解るようになることでしょう。(F.O.)

193.8 ||Oka